いじめ被害体験の長期的影響からの回復と成長の弁別

心的外傷後成長とレジリエンスの対比による検討

○長田 真人

(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)

キーワード: PTG(心的外傷後成長), いじめ, レジリエンス

Distinction of recovery and growth from long-term effects of bullying-Comparison of post-traumatic growth and resilience-

Makoto Osada

(KOBE University Graduate School of Human Development and Environment)

Key Words : PTG, Bullying, Resilience

問題・目的

困難な体験や苦しみ後に良い方向に変わることは真新しくないが、近年、それを科学的に検討しようという動きの中で、PTG(Post Traumatic Growth: 心的外傷後成長)が注目されている。PTGとは、危機的な出来事や困難な経験における精神的なものがきや戦いの結果生じるポジティブな心理的変容の体験である(Tedeschi & Calhoun, 1996)。一方で、PTGと精神的健康との関連については疑問が示されており(Frazier et al., 2009), PTGは精神的健康に対して有意な影響を与えていないという報告もある(Helgeson et al., 2006)。いじめ研究においても、PTGといじめ被害体験からの否定的影響は併存し、PTGと自尊心は弱い正の相関が確認されており(長田, 2015)、いじめ被害体験からの回復と成長の概念的弁別においても疑問は残されている。そこで、本研究では、困難で脅威的な場面であるにもかかわらず、うまく適応する過程・能力・結果であるレジリエンス(Masten et al., 1990)に注目する。レジリエンスは、トラウマ体験をしたとしてもPTSDを発症しないレジリエントな特徴を持つとともに(Bensimon, 2012)、不適応な状態からの回復やその過程を示し(Bonanno, 2004)、PTGとの概念的な区別が曖昧であることが指摘されている(Tedeschi, Calhoun & Cann, 2007)。本研究においては、精神的健康と正の関連を示すレジリエンスと精神的健康と結果が安定しないPTGを形成過程から比較検討することで、両概念の弁別性を考察することを目的とする。また、本研究においてはJoseph & Linley(2005)による有機体価値理論から検討を行う。有機体価値理論とは、外傷的事象によってこれまでの想定世界が混乱した際に、同化と調整によりその体験を適切に価値づけるモデルであり、特に調整によりPTGが促進されることが示されている(堀田・杉江, 2013)。

方法

一般大学生男女を対象とした質問紙調査を行い、249名(男162名, 女87名)の回答を得た(有効回答率88.61%)。質問紙内容は以下の6点である。①小中学校時代のいじめ体験について(立場・内容・頻度・症状)、②PTGI-SF-J(Taku et al, 2007)、③意味づけにおける同化と調整尺度(堀田・杉江, 2013)、④人生における目的尺度(中原, 2008)、⑤二次元レジリエンス尺度(平野・杉江, 2010)、⑥主観的幸福感尺度(島井, 2004)。分析には、SPSSとAMOS(ver.21)を使用した。なお、本調査の実施に当たっては、責任発表者の所属大学院において、倫理審査委員会から承認を受けている(N0.368)。

結果

いじめ被害経験のある194名(男125名, 女69名)を対象に分析を行った。まず、相関分析の結果から、ほぼ先行研究と同様の相関を確認した(Table1)。その後、資質的レジリエンスの平均値を参考に、資質的レジリエンス低群・高群に分け、多母集団同時分析を行った

変数	平均値	標準偏差	1	2	3	4	5	6
1. いじめ被害経験	1.48	0.50	1.00					
2. PTGI-SF-J	1.25	0.45	0.28*	1.00				
3. 同化・調整尺度	1.12	0.38	0.15*	0.18*	1.00			
4. 人生における目的尺度	1.15	0.35	0.12*	0.15*	0.18*	1.00		
5. 二次元レジリエンス	1.10	0.32	0.10*	0.12*	0.15*	0.18*	1.00	
6. 主観的幸福感	1.18	0.30	0.08*	0.10*	0.12*	0.15*	0.18*	1.00

*p<0.05, **p<0.01

Table1. 変数間の相関関係の相関係数と有意性

* p<0.05, ** p<0.01. 図表は有意でないパスを示す。

Figure1. 資質的レジリエンス低群におけるモデルを示す。

* p<0.05, ** p<0.01. 図表は有意でないパスを示す。

Figure2. 資質的レジリエンス高群におけるモデルを示す。